



# 地域で安心して豊かに暮らさせる、そんな長岡のまちをつくりたい

— 磯田市長

堂の輪をさらに広げていけるといいなと思います。  
**山岸** 私自身、生まれ育った小国が大好きです。子どもたちも、「小国が好き」「長岡が好き」と胸を張って言えるような地域にしたいですね。  
 今後は、親子や若者、お年寄りなど多世代の人に協力してもらい、

「地域のお茶の間」企画をしてみたい。それを、アオーレとかまちなかにも出張して、小国の料理を振る舞ったり魅力を紹介したり。  
**小林** ぜひ、表町にも。  
**中静** 地域間交流もいいですね。  
**小林** 小国のおかずを教えてください。寺泊の魚と一緒にさばきましようとか。他の地域との交流で食堂の可能性が広がりますね。  
**市長** 地域間交流が盛んになれば、観光客やインバウンド（訪日外国人旅行者）の増加という動きにもつながってくると思うんです。ネットワークが広がれば、まちの共生力も高まります。コミュニティ活動の地域間交流は、これらのテーマになりそうですね。  
**木村** 波音と求草地区や夏戸地区の3つの団体が集まって「寺泊未来会議」というものを昨年の夏に発足したんですが、市外の人と協働する機会もありました。小国地域の雪かきボランティアに来ていた早稲田大学の学生とつながりを持つことができたんです。  
 今後、その交流を続けて、学生がたくさん来るまちにできたらすごく活性化すると思います。移住者を増やすことが難しくても、若者の居場所をつくることで交流人

口を増やしていく。「いつかは戻ってきたい」。市外、県外に出た人がそう思えるようなまちにしたいですね。  
**市長** 「地域内での連携」「地域間の交流」、そして「市外の人との協働」という新しい「地域共生のカタチ」で、何か新しいものが長岡で生まれそうな予感がします。  
 ◇ ◇  
**市長** 今日「地域の力が、未来を創る」というテーマでお話をいただきました。みなさんの「地域への愛」「長岡への愛」が、長岡で暮らしたい、子どもを育てたいと思える、本当に価値のあるまちにしていくと改めて確信しました。これからも市民のみなさんの活動をしっかりと支えながら、地域で安心して豊かに暮らせる、そんな長岡のまちをつくりたいと思います。  
 長岡の活力を高めるための未来への投資である「新しい米百俵」。その土台となり、舞台となるのが、まさに「地域」です。  
 それぞれの地域、そして、長岡市全体が「ONLINE TEAM」になってスクラムを組み、市民の力、地域の力で、長岡の明るい未来を一緒につくっていきましょう。



▲約10kgの魚のクッションを大玉送りのように送る寺泊地域の「浜大漁選手権」(写真⑥)



▲おぐにコミセンで交流する「おぐにママさんの会」(写真⑤)

して、もう一人子どもを産もうとか、小国に帰って子どもを育ててみようという若い人の行動につながれば、地域を維持することにもなります。  
**市長** 木村さんは、いかがですか。  
**木村** 地域の人も楽しめるイベントをしたいと思い、「寺泊総合型スポーツクラブでらスポ!」と連携して伝統の「浜大漁選手権」を復活させました(写真⑥)。元は寺泊の町民運動会の競技だったので、老若男女、みんな一緒に楽しんでくれました。  
**市長** 婚活イベントはやっていきますか。  
**木村** 「Loveビーチ」というイベントの企画・運営に波音のメンバーも参加して、若い人に声を掛けたらたくさん来てくれるようになりそうです。毎回2、3組のカップルが成立して…  
**全員** すごい!  
**木村** あと、小学生への食育を意識して、船で釣った魚を自分たちでさばいて食べるという企画をしました。30組ほどを予定していましたが、90組から応募があって、すごい反響でした。  
**市長** 無料だからではありませんか？

参加費は1組5千円いただきました。今後は、補助金に頼らず、自分たちのお金で事業を回していくことを目標にしているのですね。「補助金がなくなったから活動が一気に途切れる」なんてすくもつたいないと思います。  
**中静** 素晴らしい。そのくらいの気構えがないと。  
**木村** お金をもらおうと、それありきで活動してしまう。自分の足で歩いていけるような事業をしないと。私たちもいたいただきましたが、市には市民活動の初期費用だけ支援してもらえれば助かります。  
**市長** ながおか・若者・しごと機構には「若者提案プロジェクト補助金」があります。  
 山岸さんたち子育て中の方には、妊娠から育児まで切れ目なく支える「長岡版ネウボラ」の体制を整えています。地域の将来を担う若者が力を発揮できる環境づくりに今年も全力で取り組みます。  
**連携、交流そして協働**  
**新しい地域共生のカタチ**  
**市長** 2020年、市は市民生活を支える団体の活動や地域での住民同士の助け合いをしっかりと下

支えしていきます。  
 最後に、みなさんの今後の新しい試みや夢を聞かせてください。  
**中静** 市と協力して、先進技術を活用した子どもの見守りに取り組みます。IoT\*タグを持った子どもの居場所を保護者がスマートフォンで把握できる仕組みです。地域のみなさんの賛同をいただき、実証実験を始めます。8ページへ  
 安心して暮らせる地域を子や孫の

世代につなげていきたいです。  
**市長** それは高齢者の見守りにも応用できそうですね。実は中山間地域でも、ICT(情報通信技術)を活用した高齢者の見守りの検討を始めます。  
**小林** 私は地域の人と協力して、まちなかコミュニティ食堂を継続、充実させていきたいです。他の地域で運営している人とも連携して、横のつながりを築き、市内で地域食



# 補助金に頼らず、自分の足で歩いていけるような事業を

— 木村さん

\*IoT (アイオーティー) …身の回りのあらゆるモノがインターネットにつながる仕組み